

学位被授与者氏名	田崎 美由貴 (たさき みゆき)
論文題目	医療ソーシャルワーカーと社会問題認識 —社会福祉教育と診療報酬による規定に関する一考察—
論文審査結果の要旨	<p>本論文は医療の現場で働く MSW としての著者が、これまでの入院患者への生活支援を行ってきた職業経験に照らして形成してきた問題意識を具体化したものである。</p> <p>社会福祉を生活問題解決・緩和のための援助の体系として把握した上で、患者の生活上の問題が社会問題によって発生するという原理を理解することで、医療ソーシャルワーカーの、ひいては社会福祉援助にかかわる専門職者の支援のあり方に影響を及ぼす議論を展開したことは重要であり、評価に値する。</p> <p>本論文の論点の中心は2点ある。</p> <p>1点 は 専門家としての社会福祉士養成のカリキュラム中にある「社会福祉概論」「社会福祉原論」等のテキストの分析を中心に、社会福祉とは何かという社会福祉の本質をめぐる議論について検証している。この分析では、社会福祉の機能や役割について説明されていても、社会福祉の本質についてはほとんど言及されていないことを明らかにし、専門家養成の社会福祉教育の中に社会福祉援助という仕事の意味や意義を見出すことが困難になっている専門家養成の現状を明らかにした。</p> <p>2点めは MSW の業務の中心となっている退院支援を効率的に行うよう求められる現状を批判的に吟味している。入院患者の退院後の医療的ケアと生活の再構築に関する支援がほとんどできていない事実を指摘する中で、疾病を生じさせる原因を生活のあり方の中にも求め、その原因の解決を図る仕事に向かうことが困難となっている事実を明らかにした。</p> <p>つまり、MSW が生活問題の発生要因に無関心であることは、間接的に健康格差を容認し続けることをも意味するものであり、問題解決に迫るための役割を果たし切れていないことを指摘している。</p> <p>本論文は MSW が、社会福祉の対象を社会問題としての生活問題であると認識し、生活問題の解決・緩和を目指してその役割を発揮するならば、入院患者の生活問題解決に向けた取り組みを系統化し、具体的な生活の改善に寄与できる可能性を明らかにした点で積極的に評価できるものである。</p> <p>令和2年2月19日に、北九州市立大学北方キャンパス4号館4-101教室において、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士(人間関係学)として十分な内容であると判定した。</p>